

歯科病名歷程

杉 本 茂 春*

序 章

スシュルタ本集・東医宝鑑・病論俗解論・病名彙解・消化器病学、それぞれのなかにみえる歯科病名を調べ、その配列・取扱等から、それぞれの時代の医学概念のなかで、歯科はどのような位置を占め、立場を与えられていたかを考察する。

スシュルタにみえる歯科病名

スシュルタ本集（大地原訳本）には、次のような歯科病名が記載されている。

A 総説にみえる歯科病名

腐蝕剤製法及用法章に

舌下膿瘍

舌上膿瘍

歯齦膿瘍

外傷性歯根弛緩

には腐蝕剤を用いる。

外科手術法章に

口蓋肉腫

口蓋腺腫

智歯歯齦腫

には切除法を用いる。

多種の軽症口蓋腫

歯齦腫

には切開法を用いる。

舌下膿瘍（ガマ腫）

脂肪由来の劇しき歯齦腫瘍

には乱刺法を用いる。

歯石

には抜除法を用いる。

歯槽膿瘍

棘状舌苔

齶歯

血膿性歯齦腫

出血悪臭歯齦膿瘍

疼痛性歯齦腫瘍

胆汁素血液粘液素由来の口唇病

その他大部分の軽症諸症

には刺絡法を用いる。

B 病理編にみえる歯科病名

7の座位に分宿する口腔病は65種に及ぶ。

1 口唇

1) 体風素不調による口唇病

2) 胆汁素不調による口唇病

3) 粘液素不調による口唇病

4) 三病素総合不調による口唇病

5) 血液不調による口唇病

6) 脂肪による口唇病

7) 外傷による口唇病

2 歯根

1) 壊血病（粘液素及血液不調性）

2) 歯齦瘍（粘液素及血液不調性）

3) 歯槽膿漏（悪血性）

4) 歯槽膿瘍（粘液素及血液不調性）

5) 壊疽性歯齦炎（三病素性）

6) 歯齦出血（胆汁素・粘液素及血液不調性）

7) 歯齦炎（胆汁素及血液不調性）

8) 外傷性歯牙炎（外傷性）

9) 齶歯（副歯）（体風素不調性重複歯）

10) 智歯歯齦腫（粘液素不調性）

11) 頬瘻

12) 眼下瘻

13) 頤瘻

14) 顎下瘻

15) 胸瘻

* SHIGEHARU SUGIMOTO

以上、15種類に及ぶ。

3 齒

1) 齒痛 (体風素不調性)

2) 齲齒 (体風素不調性)

齒は黒色、穿孔を有し、弛み動き、滲出液を分泌し、炎症を伴い、劇痛あり。而して、その痛みたるや、何等明らかなる原因なくして顕わるものは齲齒。

3) 齒感過敏症 (体風素不調性)

齒の、冷・熱・触に堪え得ざる病。

4) 齒牙崩壊 (粘液素及体風素不調性)

5) 齒石

小石の如く、固くなれる垢を生じ、それが齒の性徳を破壊するもの。

6) 団結性齒石

もし、齒石とともにエナメル質も剝離するならば、斯く齒を侵蝕するものを云う。

7) 黒齒 (血液素及胆汁素不調性)

齒は全く焙焼せられ、暗褐色又は暗青色となるもの。

8) 下顎骨脱臼牙関緊急と同じ症状 (体風素不調性)

高声・哄笑・固きものを咬み、大欠伸をなすなどの為に起る。

4 舌

1) 3種の棘状乳頭突起〔炎〕

a) 体風素性棘状乳頭突起〔炎〕

舌裂け、味覚を失い、チークの木の子の如し。

b) 胆汁素性棘状乳頭突起〔炎〕

舌黄色を呈し、帯紅色の棘状突起を簇生し、燄衝を起す。

c) 粘液性棘状乳頭突起〔炎〕

舌は重く厚くなり、棉の棘の如き形を有せる肉芽を簇生す。

2) 舌炎 (粘液素及血液不調性)

舌を強直せしめ、その基部に於て、しばしば化膿を来す。

3) 蝦蟇腫 (粘液素及血液不調性)

舌尖状の腫瘍にして、舌を隆起せしめ、唾液分泌・痒感・灼熱感を伴うもの。

5 口蓋

1) 口蓋腺腫

2) 扁桃腺膿瘍 (粘液素及血液不調性)

大なる腫瘍にして、刺激・灼熱感・化膿を伴う。

3) 急性扁桃腺炎 (血液不調性)

口蓋部に於ける赤色・硬直性の腫瘍にして劇痛・熱発を伴うもの。

4) 扁桃腺肥大症 (粘液素不調性)

亀甲状に隆起し、無痛・發育緩徐にして、潮紅を呈せざるもの。

5) 口蓋癌腫 (血液不調性)

口蓋中央に於ける蓮華状の腫瘍にして

6) 縁辺口蓋腫 (粘液素不調性)

口蓋縁に位せる筋肉の侵され、疼痛なきもの。

7) 棗果状口蓋腫 (粘液素及脂肪不調性)

口蓋部に生ずる永存性の腫瘍、形・大きさ棗の果実に比すべく、無痛なるもの。

8) 口蓋炎 (体風素及胆汁素不調性)

口蓋甚しく乾燥し、亀裂を生じ、呼吸困難を伴うもの。

9) 口蓋膿瘍 (胆汁素不調性)

口蓋に激甚なる化膿を生ずる。

6 咽喉

1) 各種悪性咽喉炎

a) 悪性咽喉炎

咽喉における筋肉を侵され、咽喉閉塞性の腫瘍を生じ、たちまちにして死を致す。

b) 悪性咽喉炎 (体風素不調性)

舌全面に小結節腫を生じ、劇痛を覚え、咽喉を閉塞し、体風素性続発症を伴うもの。

c) 悪性咽喉炎 (胆汁素不調性)

胆小結節腫の發育速かにして、たちまちに燄衝・化膿を来し、劇しき熱発を伴う。

d) 悪性咽喉炎 (粘液素不調性)

小結節硬重・化膿緩徐、咽喉腔を閉塞するもの。

e) 悪性咽喉炎 (総合的不調性)

腫根深く、化膿性にして、如何なる方便も之を防禦する力なく、各病素に特有なる症候を呈するもの。

f) 悪性咽喉炎 (血液不調性)

咽喉に小腫瘍簇生し、胆汁素由来の場合と同じ徴候を現わすもの、不可治なり。

2) 刺痛性咽喉腫（粘液素不調性）

大なる棗果の核くらいの粗剛なる結節腫にして、棘又は「シュエカ」虫によるが如き痛を有し、外科的手術によりて治療し得るもの。

3) 舌根腫瘍（粘液素及血液不調性）

舌根上に舌尖状の出血性腫瘍を生ずる病。もし、化膿に陥らば不治として断念すべし。

4) グラヤ（粘液素不調性）

延長隆起せる腫瘍を生じ、食物の通行を妨ぐ。

5) バラーサ（粘液素及体風素増殖性）

呼吸困難・疼痛を伴う腫瘍にして、生命の危険を伴うもの。

6) エーカヴリンダ（粘液素及血液不調性）

まるく隆起せる腫瘍にして、灼熱感・搔痒を伴い、非化膿性にして軟重。

7) ヴリンダ（胆汁素及血液不調性）

まるく隆起し、劇しき灼熱感・強烈なる発熱を呈する。

3) シャタグッニー（三病素由来）

咽喉における硬き腫瘍にして、数多の小息肉をもって被われ、咽喉を塞ぎ、種々多様な疼痛を惹起するものにして不治。

9) 咽喉硬腫（粘液素及血液不調性）

その大きき菴摩勒果の核の如く、質固く疼痛少く、あたかも食塊のつかえたるが如き感あるもの。外科手術によりて治す。

10) 咽喉膿瘍（三病素由来）

咽喉壁全部を侵し生ずる腫瘍にして疼痛あり。

11) 咽喉大腫瘍（粘液素及血液不調性）

飲食物の嚥下を妨げ、劇しき発熱を伴い氣道を梗塞する。

12) 格魯布性喉頭炎（粘液素不調性）

氣道侵され、嗄嘶・乾燥・喘鳴を起し、甚しく窒息しつつ、呼吸困難を訴えるもの。

13) 喉頭息肉（三病素由来）

垂下性・蔓延性を有する、すこぶる悪性の腫瘍にして、次第に喉腔を梗塞する。致死。

14) 喉頭潰瘍（胆汁素不調性）

喉頭内の腫瘍にして、灼熱感・疼痛・出血を伴

い、肉ただれ、悪臭を放つもの。

7 全口腔病

1) 汎発性口腔病（体風素・胆汁素・粘液素・血液の不調性）

a) 汎発性口腔病（体風素不調性）

口腔壁全体の疼痛を伴い、しかも小膿疱を以て被われたるもの。

b) 汎発性口腔病（胆汁素不調性）

赤色又は帯黄色の灼熱感を伴える小膿疱を以て被われたるもの。

c) 汎発性口腔病（粘液素不調性）

粘膜と同じ色の小膿疱を以て被われる。

2) 口腔炎（血液不調性）

胆汁素不調性のものの1種

C 治療編にみえる歯科病名

1 口唇病

2 歯根に生ずる病

1) 壊血病

2) 歯齦腫瘍

3) 歯槽膿漏

4) 壊疽性歯齦炎

5) 歯齦出血

6) 歯齦炎

7) 外傷性歯牙炎

8) 贅齒

抜歯し、のち、火にて焼灼すべし。齶歯に同じ治方を用うべし。

9) 智齒齒齦腫

10) 齒瘻

3 歯病

1) 齒感過敏症

2) 固結性齒石

3) 齒石

4) 齶齒

ゆらぐ齶齒は之を拔除し、腔所を焼灼すべし。

5) 顎骨弛緩

4 舌の病

1) 棘状舌乳嘴

2) 蝦蟇腫

5 口蓋病

1) 口蓋腺腫

- 2) 扁桃腺膿瘍
 - 3) 急性扁桃腺炎
 - 4) 扁桃腺肥大
 - 5) 口蓋腫
 - 6) 棗果状口蓋腫
 - 7) 口蓋膿瘍
 - 8) 口蓋炎
 - 6 咽喉病
 - 1) 咽喉炎
 - 2) 舌根腫瘍
 - 3) 硬性咽頭腫
 - 4) 咽喉膿瘍
 - 5) 刺痛性咽喉腫
 - 6) エーカヴリンダ
 - 7 汎発性口腔病
 - 1) 各種汎発性口腔病
 - 8 不可治口腔病
 - 1) 口唇病
悪肉・悪血及3病素より生ずる口唇病
 - 2) 齒根病
 - a) 複合的3病素由来の齒癰
 - b) 壞疽性齒齦炎(水癌?)
 - 3) 齒病
 - a) 黒齒
 - b) 齒痛
 - c) 齒牙破碎
 - 4) 舌病
 - a) 舌炎
 - 5) 口蓋病
 - a) 口蓋癌腫
 - 6) 咽喉病
 - a) 格魯布性喉頭炎
 - b) グラヤ
 - c) ヴリンダ
 - d) パラーサ
 - e) 喉頭潰瘍
 - f) 咽喉大腫瘍
 - g) 喉頭息肉
 - h) シャタグッニー
 - i) 悪性咽喉炎
- 以上、約140種に及ぶ歯科病名を数えた。

小括ならびに考按

特種外科学にふくまれる口腔病科は、未分化の咽喉科をふくめて、記載されている、

- 1 唇 8種
- 2 齒根15種
- 3 齒 8種
- 4 舌 5種
- 5 口蓋9種
- 6 咽喉17種
- 7 全口腔3種

以上、65種の病名が基本をなしている。

また、部位別、原因別、可治・不可治別等に分類して、実証的である。

東医宝鑑にみえる歯科病名

東医宝鑑(朝鮮・許浚等者、万暦41年、台联国風出版社刊、中華民國61年再版本)には、次のような歯科病名が記載されている。

- A 内景編 卷2
 - 1) 齒衄
 - 2) 舌衄
- B 内景編 卷3
 - 3) 齒痛有虫(見牙齒門)
- C 外形篇 卷1
 - 4) 塔顚腫(腮頰齒牙唇口俱腫出血)
- D 外形篇 卷2

耳・鼻・口舌・牙齒・咽喉・頸項・背、以上7部門に区分されている。

- 口舌門
- 5) 口酸
- 6) 口苦
- 7) 口甘
- 8) 口辛
- 9) 口鹹
- 10) 口臭
- 11) 口糜
- 12) 虚火口瘡
- 13) 唇腫
- 14) 唇瘡
- 15) 顰唇
- 16) 舌腫
- 17) 重舌

- 18) 木舌 (与舌腫同治)
- 19) 舌衄 (詳見血門)
- 20) 舌長舌短
- 21) 舌上生胎
- 22) 舌生芒刺
- 23) 失欠脱頤
- 24) 自嚙舌頰
- 25) 口流涎 (詳見津液門)
- 26) 口噤不開 (詳見風門)
- 27) 小兒口舌病
 - i) 小兒口瘡
 - ii) 重舌
 - iii) 木舌
 - iv) 小兒弄舌
- 28) 口舌瘡
- 29) 舌腫大満口
- 30) 口瘡糜痛
- 31) 緊唇
- 32) 口吻生瘡白爛
- 33) 重腭
- 34) 重齦
- 35) 舌腫脹出口
牙齒門
- 36) 齒病惡寒惡熱
 - i) 熱牙痛
 - ii) 上齒痛
 - iii) 上片牙痛
 - iv) 下片牙痛
- 37) 牙齒痛有七
- 38) 風熱痛
- 39) 風冷痛
- 40) 熱痛
- 41) 寒痛
- 42) 毒痰痛
- 43) 瘀血痛
- 44) 虫蝕痛
- 45) 牙齒動搖
- 46) 齒齦宣露
- 47) 牙齒宣露動搖
- 48) 牙床腫痛動搖黒爛脱落
- 49) 牙齒疳蝕脱落

- 50) 虫牙痛
- 51) 牙疼
- 52) 牙齒疳鬻瘡
- 53) 天疱瘡後牙痛
- 54) 牙疳惡瘡
- 55) 齒黃黑
- 56) 牙齒漸長
- 57) 鬪齒
- 58) 齒衄 (詳見血門)
- 59) 齦齒
- 60) 食酸齒齦
- 61) 大寒犯腦牙痛
- 62) 大寒犯腦頭連齒痛
- 63) 風虫牙痛

以上、約63種に及ぶ齒科病名を数えた。

小括ならびに考按

地理的にも近隣国として、もっとも大なる影響をうけた朝鮮の医学書、東医宝鑑には内景篇血門等に由来する口腔疾患を熟知して記載している。

口舌門、即ち口腔軟組織部。

牙齒門、即ち齒牙硬組織並に附近組織部。

両部に区分して、詳記されている。

病論俗解集にみえる齒科病名

病論俗解集 (寛永16年 (1639) 仲季板行、二条通玉屋町村上平楽寺、1巻、原著者不明、複刻本、文史哲出版社刊 (1972) には、次のような齒科病名が記載されている。

日本医史学会関西支部長、中野操先生によれば、江戸時代最初の病論病名集である。

伊・路・波順に掲出されている。

1 波部

1) 板齒 ムカバ

2 知部

2) 舂牙 蛙モ同シ、ムシクヒバ

3) 重舌 コジタ、舌下亦舌タ生スルヲ云ゾ

3 加部

4) 疳齒匿 匿者可為鬻、鬻ハ女ヒ切、小虫也、カン故ノ虫クイバ。

5) 咬牙 ハギシミ

4 太部

6) 唾血 ツハキニチノ糞リ出ル事

- 7) 大頭病 疫癘ノ類也 ホフハレ
 8) 大小腮傷寒 蝦蟇温ト云モ大頭病ト云モ皆
 ナヲナシ事也
- 5 久部
 9) 環口 クチヲツボムル事
 10) 齩齒 クシ, 湿熱也ムシクヒバ
- 6 計部
 11) 牙宣 ハアラハル
 12) 牙関 ハクヒツメ
 13) 齧齒 ハカム, ハギシミ
 14) 牙疳 ハクサ
 15) 膈合 上下ノ脣ノチャウド合タ事ナリ
- 7 古部
 16) 口氣 口臭惡氣モ同事 クチクサシ
 17) 口喎 クチュガム
 18) 口淡 クチミヅクサク
 19) 口舌乾燥 心熱ノアル故也 燥ハホメク,
 カハク
- 8 天部
 20) 重腭 頬及上ハ腭ギニツクヲ云
 21) 重齦 牙齦ニ付ヲ云
- 9 幾部
 22) 虚舌 イダサウトモヲモフヌニヲノレトイ
 ズル舌ノ事ナリ
 23) 魚口 クチヲホンガリトアヒテ居ル義
 24) 齧蝕 齒グキヲ虫ノクフ事
 25) 喜唾 ヲホクツハキヲハク事
- 10 之部
 26) 齒齦 ハグキ ハノモト
 27) 齒疳 ハクサ
 28) 𦵏, 上ヘ如シ熟小豆, ニフザカシタルアツ
 キノヤウナト云心ソ, 氣血ノ無力ト可見
- 11 毛部
 29) 木舌 舌大ニ腫テ口中ニ満ルゾ, 木ノ如ニ
 テコワバルナリ
- 12 世部
 30) 舌澁 シタトモリ シタマワラズ
 31) 舌脹 舌大キニ成テ腫ルル事ゾ
 32) 舌根強 セツコンスクム血ノ無甲斐故也
- 小括ならびに考按
 江戸時代の病論病名集としては, 最初に著述さ

れたもので, 著者は不明である。

1000にあまる病名中, 口中・歯科に関する病名
 は, 32を数えた。

しかも, それぞれの病名に注釈をつけて, 当時
 の症状理解を容易にしている。

病名彙解にみえる歯科病名

病名彙解(大阪府立中之島図書館蔵, 石崎文庫
 本, 芦川桂洲著, 貞享3年(1686)京都梅村藤右
 衛門版)には, 次のような歯科病名が記載されて
 いる。

ただし, 口科・口中科または口腔病の指摘はな
 く, 以・呂・波順に掲出されている。したがっ
 て, 咽喉科関係病名は除外した。

A 病名彙解目録にみえる歯科病名

I 卷之一

1 以部	55病名中	欄外朱字	7 病名
1) 頤頰瘡		1) 兔 ^{イダチ} 欽	
2 呂部	19病名中		2 病名
2) 弄舌		なし	
3 波部	79病名中		14病名
3) 潘唇		2) 重齦	
4) 抜齒損		3) 重齒	
5) 癰頤			
4 仁部	33病名		6 病名
なし		なし	
5 保部	51病名		2 病名
6) 崩沙耳口風		なし	
6 邊部	30病名		2 病名
なし		なし	
7 土部	48病名		5 病名
7) 吐舌		なし	
8) 兔齧			
9) 兔欽			

II 卷之二

8 知部	58病名		6 病名
10) 虫瘻		なし	
11) 虫胞			
9 利部	15病名	なし	
なし			
10 奴部	病名未考		
11 留部	6 病名	なし	

なし				24	宇部	14病名	10)	蝕牙	
12	遠部	12病名	8 病名		なし		11)	牙虫	
			4) 頷車蹉	25	為部	入以部	12)	風齩	
			5) 落下頰	26	乃部	19病名	13)	齒齧	
			6) 落架風		なし		14)	齒虫	
			7) 頰車病	27	於部	入遠部			
13	和部	14病名	7 病名	28	久部	74病名			8 病名
	なし		なし		27) 齧口疳		15)	対口	
14	加部	104病名	9 病名		28) 齧齒				
	12) 疳齒齧		なし		V 卷之五				
	13) 含頤瘡			29	也部	13病名			3 病名
	14) 顔癰				なし		なし		
	15) 角架風			30	未部	4 病名	なし		
	16) 鵝口瘡				なし				
	17) 牙疔			31) 計部	107病名				
	18) 齧齒				29) 牙癰風		なし		
	19) 頷車蹉				30) 牙宣				
	20) 牙縫血				31) 牙蟊風				
	21) 寒蟬咬牙				32) 牙虫				
	Ⅲ 卷之三				33) 牙齒虫				
15	与部	10病名	4 病名		34) 牙齒歴蠹				
	なし		なし		35) 繭唇				
16	太部	88病名	4 病名		36) 牙槽風				
	22) 唾血		なし	32	不部	50病名			5 病名
17	礼部	16病名	なし		37) 附牙癰		なし		
	なし				38) 風齩				
18	曾部	48病名	10病名		39) 風齒				
	23) 走馬牙疳		なし	33	巳部	82病名			11病名
	24) 搜牙風				40) 口吻瘡		16) ^{コシタ} 重舌		
19) 津部	4 病名	9 病名			41) 口臭				
	なし	ツバキニチノマヅル	8) 唾血		42) 口舌乾焦				
20) 禰部	10病名	2 病名			43) 口内肉毯				
	なし	なし			44) 口疳				
21	奈部	20病名	5 病名	34	江部	入恵部			2 病名
	なし	なし		35	天部	43病名	なし		
	Ⅳ 卷之四				45) 甜瘡				
22	良部	26病名	1 病名		46) 重腭喉風				
	25) 落架風				47) 重舌				
	26) 落下頰				48) 重腭				
23	無部	5 病名	14病名		Ⅵ 卷之六				
	なし	9) 吐蛻		36	安部	18病名			7 病名

なし		8) ^{ウエノアゴヘルル} 重 膈	
37 左部	38病名		6 病名
49) 撮口		なし	
38 幾部	129病名		3 病名
50) 魚口		なし	
51) 魚口風			
52) 噤口			
53) 緊唇			
39 由部	12病名	なし	
なし			
40 女部	8 病名		3 病名
なし		なし	
41 美部	6 病名		3 病名
なし		なし	
42 志部	260病名		22病名
54) 歯音離		8) ^{シタントギ} 鵝口瘡	
55) 齒漏			
56) 齒黃黒			
57) 齒璽			
58) 齒挺			
59) 齒齲注			
60) 齒虫			
61) 唇瘡			
62) 自嚙舌			
63) 嚙頰			
64) 嚙唇			
65) 齒衄			
66) 唇疽			
67) 子舌			
Ⅶ 卷之七			
43 患部	23病名		2 病名
68) 燕口吻瘡		なし	
69) 燕瘡			
44) 比部	56病名		3 病名
なし		なし	
45) 毛部	8 病名		3 病名
70) 木舌		なし	
46 世部	72病名		2 病名
71) 雪口		なし	
72) 蟬舌風			
73) 舌衄			

74) 舌骨

75) 舌黃風

47 寸部 28病名 2 病名
なし 9) ^{スグモ}兎歛

小括ならびに考按

中国医学の影響をうけていると考えられる病名彙解には、口中科・齒科を含めて、一般病名中に列記されている。

また、「むしば」と総称される。齒痛の症状を分析して、少くとも、7種の症状に区分して、正確に対応しようと試みた、朱字加筆者の見識は、齒科へのただならぬ関心を示すものであろう。

合計1800病名中、齒科病名87、は加筆を加えると約100病名にあまる。

消化器病学書にみえる齒科病名

近代西洋医学の範疇にある。消化器病学書（斉藤精一郎著）にみえる齒科・口腔齒病名は、次のように記載されている。

I 口唇疾病

- 1 口唇ノ畸形及異常
- 2 口唇ノ凍傷
- 3 口唇ノ湿疹
- 4 口唇ノ乾燥亀裂
- 5 口角ノ腐爛
- 6 口唇ヘルペス
- 7 粉脂
- 8 面疔及癰
- 9 口唇ノ肥大
- 10 口唇ノ腫瘍
- 11 ベルッ氏疾病

II 口腔粘膜ノ疾病

- 1 加答兒性口内炎（急性及慢性）
- 2 潰瘍性口内炎
 - a) 亜布答性口内炎（ベードナール氏亜布答）
 - b) 流行性口内炎
 - c) 諸種ノ刺激ニ因スル諸潰瘍
- 3 潰爛性口内炎
 - a) 汞毒性口内炎
 - b) 壊血病性口内炎
- 4 化膿性口内炎又蜂窩織炎性口内炎
- 5 壊疽性口内炎（水癌）

- 6 浸出性口内炎
 - a) ヘルペス
 - b) 伝染性口内炎
 - c) 其他ノ水疱性疾患
- 7 寄生性口内炎
 - a) 鰐口瘡
 - b) 放線状菌病
- 8 急性傳染性口内炎
 - a) 漏膿性口内炎
 - b) 丹毒性口内炎
 - c) 口腔実布的里
- 9) 慢性傳染性口内炎
 - a) 口腔梅毒
 - b) 口腔結核
- Ⅲ 舌ノ疾病
 - 1 舌ノ畸形及異常
 - 2 分画舌
 - 3 地図状舌
 - 4 舌黄斑
 - 5 舌ノ急性炎症
 - a) 急性舌炎
 - b) 急性丘疹性舌炎
 - 6 舌ノ慢性炎症
 - a) 慢性舌炎
 - b) 慢性鱗屑性舌炎
 - c) 舌黒斑病
 - 7 舌ノ梅毒及結核
 - 8 急性舌扁桃腺炎
- Ⅳ 齒齦及齒牙ノ疾病
 - 1 齒齦炎
 - 2 齒牙發生困難症
 - 3 齶齒
 - 4 義齒
 - 5 齒列不正
 - 6 齒石
- V 口腔ノ新生物
- VI 口腔ノ神経症

- 1 知覚障害
 - a) 知覚減退及知覚脱失
 - b) 知覚過敏及神経痛
 - c) 知覚異常
- 2 味覚障害
 - a) 味覚減退及味覚脱失
 - b) 味覚過敏
 - c) 味覚異常
- 3 分泌障害
 - a) 唾液過多症
 - b) 唾液欠乏症
- 4 運動障害
 - a) 口脣, 咀嚼筋及舌筋等ノ麻痺
 - b) 口脣, 咀嚼筋及舌筋等ノ痙攣
- VII 唾腺ノ疾病
 - 1 耳下腺炎
 - a) 流行性耳下腺炎
 - b) 続発性耳下腺炎
 - 2 舌下腺及顎下腺ノ炎症
 - 3 唾石
 - 4 ルドウィー氏口峽炎

小括ならびに考按

近代西洋医学の影響をうけた、内科学書のうち消化器病学書には、口腔内諸疾患を網羅して、口腔領域諸疾患は、ほとんどそのすべてが内科の掌握下にあることがわかる。

結 語

わが国の歯科は、古くは印度医学の影響を受け、中世には中国医学の影響を受け、続いて朝鮮医学、ポルトガル・オランダ医学の影響を受けながら発展してきた。

明治以降、近々100年、近代西洋医学の影響のなかで今日を迎えている。

改めて、歯科病名を検索することによって、また、さらに歯科疾患のうけとめ方を検索することによって、ひろく、歯科医史の歷程を考えてみななくてはならないと思う。